

2021年度(下半期)

事業所自己点検チェックリスト【放課後デイサービス事業所】

チェック項目	評価 (1~4を記入)	【記載欄】 ・うまく工夫している点 ・具体的にできていない内容や理由 ・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 など
	1. できていない 2. あまりできていない 3. 概ねできている 4. できている	
1 サービス提供方針を明確にしている	13	
① 障害児に対して学校や家庭と異なる空間・時間・人・体験を通じて、個々の子供に応じた支援を行うことで最善の利益の保障と健全な育成を図っている。	3	感染症対策で外出の機会は少なかったが、模擬買い物活動を通じて、支払いの経験ができる活動提供を行った
② 保護者が障害児を育てる社会的支援や子育ての悩み等に相談に乗るなど保護者支援を行う。	3	希望性の面談を行った。まだスタッフにおいて保護者支援に繋がる、経験、知識は不足している。保護者と直接話す機会、担当できる経験を各スタッフが積んでいく
③ 運営規程や活動内容、個別支援計画等の内容について、利用者に正しく説明を行い、同意を得ている。	3	事業所説明会を開催したが、実質参加者が少ないことから、説明としては不足。オンライン等も今後検討
④ 子供の地域社会への参加、インクルージョンを進め、他の子供たちも含めた集団での育ちを保障している。	1	地域の子供との交流する場の提供が現状予定がない
⑤ 障害者福祉に関する法令、子供の人権、職業倫理、社会保障、消防等事業の運営に係るすべての関係法令を遵守している。	3	スタッフの全般として理解が十分とは言えない。マニュアル、訓練等できちんと身につけ共有する。全体で学ぶ時間を作る。呼称において、毎日確認をするなど、スタッフの意識付けを継続して行う
2 環境・体制整備を行っている	13	
① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である。	3	2事業所の活用、活動スペースを取り組みで分けられている 曜日によって不足が顕著。特に公立小の迎えに入が割られて不足。外出の際には、人数を増やして安全に考慮している
② 職員数の配置数は適切である。	2	
③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	3	
④ 障害特性に応じて個室化やスペース分けができています。	3	個室化のためのバージョンを用意した。特に自閉傾向の子供の個室化に使用。
⑤ 療育に必要な遊具やツールの整備、視覚的に有効な掲示等がなされている。	2	
3 社会参加・地域連携に取り組んでいる	12	
① 障害児ゆえに子供の社会生活や経験の範囲が制限されないよう、子供の社会経験の幅を広げる機会を作っている。	4	コロナ禍による活動制限により、機会が減っている
② 地域において、地区の役割や行事などに関わっている。	3	
③ 社会資源を活用し、地域における障害児や保護者のニーズを掘り起こし、対応を図っている。	2	未就学児の事業所から、情報提供あり。教育、保育の期間とは情報薄い。
④ 児童発達支援センター、療育、医療、保育、教育、自立支援協議会、地域の児童クラブ、などさまざまな関係機関・団体と連携し、地域における支援のネットワーク作りに取り組んでいる。	2	十分とは言えないが、従来の繋がりとともに休止していた放課後等デイ事業所間の意見交換会が再開。
⑤ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	1	コロナ禍による活動制限により、機会が減っている
4 職員の支援体制を整えている	13	
① サービス提供に必要な人員を配置している。	2	指定基準以上ではあるが、実働、曜日によって不足が顕著。特に公立小の迎えに入が割られて不足。
② 事業運営の理念・方針が設定され、職員間で遵守されている。	4	
③ 職員が心身ともに健康で意欲的に支援を提供できるような労働環境を整備している。	2	指定基準以上ではあるが、実働、曜日によって不足が顕著。特に公立小の迎えに入が割られて不足。人的余裕がないため特に常勤職員、休みの確保がしづらい。
④ 職員の知識・技術の向上のために、研修等の機会を確保している。	2	機会としては不足。個々の外部研修には参加できているが、グループでの共有が少なく、来年度は他施設見学にも
⑤ 職員間の意思疎通、支援内容の共有等を行うための時間や機会を日常的に確保している。	3	昨年度より常態化、形式化、視覚化は進んだ
5 権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	17	
① 職員による利用者への暴言や差別等の不適切行為を防ぐため、支援者間で支援を振り返り、意識を高めている。	3	昨年度より常態化、形式化、視覚化は進んだ。呼称の毎日確認など。
② 職員による利用者への虐待行為を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	3	一部職員が研修参加。来年度虐待防止委員会が発足。
③ 利用者からの苦情に対する「苦情解決体制」やマニュアルが整備されている。	3	マニュアルの整備はなされているが、解決までの対応、記録は不十分
④ 虐待防止委員会の設置等、職員による虐待・差別行為の防止を徹底している。	4	来年度虐待防止委員会が発足。
⑤ 個人情報の取り扱い、秘密保持に十分注意している。	4	
6 緊急時の対応のための備えができています	17	
① 「緊急時対応マニュアル」が策定されており、利用者の事故やケガ等が生じた際の対応を行っている。	4	年度当初に全員共通でマニュアル確認した。また事例があった際、マニュアルをもとに振り返りをした。
② 身体拘束について、組織的決定がなされ、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載し、職員間で共有している。	4	放課後等デイサービス計画への記録は不十分。来年度書式を修正
③ 防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定して運用している。	3	コロナ感染症対策で法人として随時ステージに合わせ更新。ただ、徹底という点ではまだ不十分。
④ 非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている。	3	定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている。
⑤ 安全確保のためのヒヤリハット事例集を作成し、職員間で共有している。	3	個別のケース記録の共有。振り返りまでの活用はできていない。
7 業務改善の仕組みがある	14	
① 業務改善を進めるために、PDCAサイクルに広く職員が参画している。	2	PDの部分は進展したが、CAまで十分な取り組みが出来ていない。
② 保護者の意見を把握するための評価表、アンケート調査等を実施し、その結果を業務改善につなげている。	4	
③ サービス提供時に得られた事柄を、マニュアルや手順書の見直しに反映させている。	3	実践上でのスタッフ共有は図られているが、書類上の落としは不足
④ この「自己点検チェックリスト」の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	4	

⑤ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。

1

未実施。法人として検討はあったが見送り

8 アセスメントを適切に行っている	17	
① アセスメントを適切に行い、子ども心身の状況やアレルギー、障害特性等を適切に把握している。と保護者のニーズや課題を客観的に分析している。	4	個別のアセスメントを年度当初に整理、更新。課題としては年度内に数回見直しをすこと。
② 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	
③ 保護者にアセスメントの趣旨と今後の手順を適切に説明し、丁寧な聞き取りを行っている。	2	説明の機会としては不足。今後、特に低年齢期には変化が大きいのので緊密にやり取りをしていく。
④ これまでの生育歴や支援経過も念頭において、聞き取りを行っている。	4	
⑤ 子供に関係する部署、機関、家族、ボランティアなどから情報を収集している。	3	
9 放課後等デイサービス計画の作成を適切に行っている	15	
① アセスメントにそって、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析して、計画書を作成している。	3	不十分。専門性で言えば表出している行動の起因についてより深掘していけるといい。
② 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している。	3	
③ 放課後等デイサービス計画の内容は、相談支援専門員が作成したサービス等利用計画の内容と連動している。	3	作成時に十分参照しているとは言えない。
④ 放課後等デイサービス計画の際にできるだけ保護者に伝わりやすく、子供が関心を持てる表現を用いている。	2	定型としての書式で子供がみることには配慮はしていない。
⑤ 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	4	
10 適切な支援の提供を行っている	17	
① 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	3	年度途中に業務日誌を改定。時間帯による職員の動き、分担を視覚化
② 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	4	
③ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	4	
④ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している。	3	職員数が増えたことできめ細かさが向上
⑤ ガイドラインの総則の基本活動を踏まえ、子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援を行っている	3	定期的なガイドラインの振り返りは必要
11 活動プログラム作成を適切に行っている	17	
① 活動プログラムの立案をチームで行っている。	4	
② 活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	3	
③ 平日、休日、長期休暇に応じて、目的を決めて設定して立案している。	4	
④ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる立案を行っている。	2	不十分。まずガイドラインの振り返り、理解、共有が必要
⑤ 新たな活動プログラムの作成のために幅広く情報を集めている。	4	
12 関係機関や保護者との連携を図っている	20	
① 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している。	4	来年度、2年未満の常勤職員も同行させていく
② 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	4	
③ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	4	LINEなどの活用度が向上
④ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	4	法人内での放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行するケースで、サービス担当者会議実施
⑤ 他の放課後等デイサービス事業所との共通で支援する子供についての情報交換を行っている。	4	毎月の放課後等デイサービス事業所間の意見交換会が再開
13 保護者支援を行っている	14	
① 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	3	全般的に専門的な知識、経験はまだ不足
② 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	4	
③ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	1	コロナ禍も考慮して実際に会う機会以外の方法を検討してみる
④ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	4	
⑤ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	2	全般的に専門的な知識、経験はまだ不足。学ぶ機会が必要。

※この「自己点検チェックリスト案」は、平成30年度厚生労働科学研究費補助金「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」を通じて作成したツールであり、結果については、一定の目安として、今後の自事業所の取り組みを振り返るにあたって参考にしていただくものです。

	チェック項目	評価 (合計)
1	1.サービス提供方針を明確にしている	13
2	2.環境・体制整備を行っている	13
3	3.社会参加・地域連携に取り組んでいる	12
4	4.職員の支援体制を整えている	13
5	5.権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	17
6	6.緊急時対応のための備えができています	17
7	7.業務改善の仕組みがある	14
8	8.アセスメントを適切に行っている	17
9	9.放課後等デイサービス計画の作成を適切に行っている	17
10	10.適切な支援の提供を行っている	20
11	11.活動プログラム作成を適切に行っている	17
12	12.関係機関や保護者との連携を図っている	20
13	13.保護者支援を行っている	14
	合計	191

／260

